

第3回 「地方行政の現場から」(2018年12月8日)

報告者 原 清(八王子市都市計画部都市総務課課長)

高野芳崇(八王子市行財政改革部行革推進課課長)

対論者 鈴木 潔(本学法学部准教授)

——(於神田校舎5号館542教室)——

前川亨(専修大学法学研究所所長): 皆さま, 専修大学法学研究所主催の「学生と市民のための公開講座」『現場からの法律学・政治学Ⅲ』の第三回「地方行政の現場から」にようこそご来場下さいました。私は当研究所の所長を務めております前川と申します。

これまで第一回「国際法・国際政治の現場から」を10月27日に、また第二回「刑事法・刑事政策の現場から」を11月10日に、実施して参りましたが、早いもので、今年度の公開講座も今回の「地方行政の現場から」でいよいよ最終回となります。時あたかも年末に向かう折に当たっておりまして、地方行政の現場も大変忙しくなってくるこの時期に、当研究所の公開講座のために時間を割いて下さいました原清先生と高野芳崇先生に、心より感謝申し上げます。今回、「都市計画」と「役所の窓口業務」という、地方行政の文字通り「最前線」の問題について、お話を伺うことが出来ますことを、私もとても楽しみに致しております。

「都市計画」と「窓口業務」ということで私が思い出すのは黒澤明監督の名画『生きる』です。余命幾許もない市役所職員的主人公が、最後の命の炎を燃やして取り組むのが公園の建設という「都市計画」事業でした。「都市計画」事業は、彼にとってそれだけ遣り甲斐のある有意義な仕事として意識されているのです。同時にこの映画では、それがそう簡単に進むわけではないこと、役所の中の様々な部署が関わり、そのいわゆる「縦割り行政」がいかに大きな障害となるかということも、リアルに描き出されています。もう一方の「窓口業務」の場面も映画のシーンに出てきます。役所の窓口というと、かつてはこの映画の場面のように、「つっけんどん」「不親切」「面倒くさい」の三点セットでした。俗に「お役所仕事」という言葉のとおりでして、病院と並んで「行きたくない施設」の筆頭格が役所だったと言えましょう。ところが、これがいつの頃からか様変わりし、面目を一新しました。最近、住居近くの出張所に行く機会がありましたが、入ったとたんホテルマンのようなおじさんがニコリ笑って「いらっ

しゃいませ」，そのうえ，親切に書類の書き方や提出するところなどを教えて下さいまして，こちらが恐縮してしまいました。「また来たい」と思った，というのは言い過ぎですが（笑）。情報管理・処理技術の向上によって，職員の方々にも精神的なゆとりが生まれたという事情があるのか，とも思います。もっとも，そういう技術の更新が逆に職員の方々の負担を増している面もあるでしょうし，また「住民にサービスの精神を」というのは（住民にとっては嬉しいことであるにせよ）職員の方々にはなかなか負担感が大きいのかも知れません。更に根本的な問題として，価値観や生活様式の多様化に伴い，住民それ自体も多様化している中で，どのようにするのが一番「住民のため」になるのかを見定めるのが映画『生きる』の時代，1950年代よりも格段に難しくなっていることは容易に想像されます。「公園がほしい」という人もいるでしょうが，そうかと思うと他方で「商業施設がほしい」という人もいる，いや「子どもの遊び場がほしい」という人もいる——という調子です。地方行政の最前線での様々な課題について，これから学んで参りたいと思います。

では，この後は，講座の進行も含めて，行政学がご専門の鈴木潔先生にお任せ致します。

鈴木潔：本日のコーディネーターを務めます鈴木と申します。本日は豪華二本立てで「地方行政の最前線」についてご講演頂くこととしております。最初に講師の方お二人をご紹介します。

まず，八王子市都市計画部都市総務課長の原清さんです。よろしくお願い致します。

原清：よろしくお願い致します。

鈴木：原さんは八王子市に入庁後，総務部法制課，まちづくり計画部都市計画室などの勤務を経られ，税務部住民税課長，都市計画部都市総務課長などを歴任されております。

もうお一人は八王子市行財政改革部行革推進課長の高野芳崇さんです。よろしくお願い致します。

高野芳崇：よろしくお願い致します。

鈴木：高野さんは八王子市に入庁後，行政経営部経営監理室，こども家庭部子育て支援課，市民部市民課などの勤務を経られまして，市民部市民生活課長，行財政改革部行革推進課長を歴任されております。

今回のテーマは二つあります。一つは「公共施設移転後の跡地利用」ということです。これは市役所にとってはまさに数十年に一度あるか無いかの巨大プロジェクトで

す。そういう重要なプロジェクトを役所の中で、どのようにしてマネジメントしていくのか。役所の中にも色々な考え方がある。それだけではなくて、住民、事業者の中にもいろいろな意見や立場がある、そうした人たちとどのようにして協力関係を構築していくのか。これらの点に注目して、お聞き頂ければと思います。

もう一つは「窓口業務改革」です。「窓口」というのはまさしく住民と行政との接点です。行政の最前線と言っても過言ではありません。前川所長がおっしゃったように、「窓口」のイメージが役所のイメージを決める側面さえあります。この「窓口業務」について、現在、国や自治体が改革を進めようとしています。皆さんもご承知の通り、例えば民間企業、とりわけ銀行などでは、今その窓口が大きく変わりつつあります。ATM化も進んでいますし、非常に効率的になっている。その一方で、役所の窓口は何十年も余り変わっていない、という側面もあります。こうしたことについて、どのように考えていけばよいか、本日学ばせていただきたいと思います。

まず原課長からご報告を頂き、その後、10分くらい質疑の時間を設けます。その次には高野課長からご報告を頂き、同じように質疑を行う、というかたちで進めて参ります。

では、早速ですが、原課長、よろしくお願い致します。